

令和7年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 一粒園認定こども園

観点	②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナが5類となった2年前から4・5歳児のみを縦割りに戻したが、まだまだコロナ禍前の状態には戻っていない。(モンテッソーリ活動中もクラス間で固まって活動している)</li> <li>・ 今年度からは3歳児も加えて縦割り保育を実践しているが、どの年齢もクラス意識が強く、クラスで動くことが多い。</li> <li>・ 個々の子どもの中には、自分を主張しすぎてトラブルになったり、逆に自分の意見を言えずに引いてしまう子どもの姿も見られる。5歳児の中にも3歳児との関わり方が分からずに困っている姿もあった。</li> <li>・ 保育者間の連携を深め、子どもへの支援の在り方を共有している。</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々な年齢の子どもと生活を共にすることで、社会生活におけるルールを学んだり、他者を思いやる気持ちや、他者との距離の取り方、自分が必要とされることへの喜び、共感する心や感謝する気持ち、憧れなどの社会性を育む。</li> <li>・ 自分も大切、他者も大切な存在であることを知り、互いに認め合ったり助け合ったりすることで、充実した楽しい園生活を送る。</li> </ul>
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでしてきたおやつの時間や触れ合い遊びに加えて、給食時間も縦割りで一緒に食事をしたり、その前後の準備や片付けなども子どもたち同士で教え合ったり、協力したりする機会を増やしている。</li> <li>・ 朝の植物への水やり当番や小動物のお世話などもできるだけ3～5歳児の班で行うようにしている。</li> <li>・ 振り返りの時間などを持って、自分の気持ちや考えを話せる場を意識して持つ。</li> <li>・ 保育者自身にも何かの活動を一緒にするだけが縦割り保育ではないことを理解してもらい、異年齢児が一緒に空間にいることでも縦割り保育の一環であることや縦割りを意識しすぎて活動の内容が保育者主体とならないようお互いに情報交換をしたり意見を共有しながら保育に取り組むようにする。</li> </ul>
成果	<p>【子どもサイドの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年下の子どもへの気遣いや思いやりの心なども育ってきている。</li> <li>・ 年上の子どもを慕い、親しみをもって関わろうとしたり真似をする中で色々なことに意欲的に挑戦する姿や興味の幅が広がってきている。</li> <li>・ 縦割りのグループで話し合ったりする場面では、自己中心的になりがち年少児も協調性を身につけつつあったり、年長児は自分たちが率先しながらも一方的に決めてしまわず年下の子どもたちの意見も聞いている姿が見られるようになってきた。</li> </ul> <p>【保育者サイドの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者同士で子どもの姿を共有したり、保育計画を相談したりすることで子ども理解の共通認識の機会が以前よりも増えた。</li> <li>・ 担任している子どもの育ちを他の保育者から客観的に見て知らせてもらうことで、多角的に捉えることができるようになった。</li> <li>・ 色々な子どもに関わることで、一人ひとりの発達や個性、年齢差に考慮した保育のあり方を考えることが増え、保育者同士が問題点を出し合うことで自分に見えていなかった視点での気づきに繋がり、保育に幅ができてきた。</li> </ul>
評価	<p>本園ではモンテッソーリ教育の理念に基づき、子どもが持つ「自ら育つ力(自己教育力)」を尊重し、手作りの教材など一人ひとりの子どもたちの発達段階に合った環境を整えることを重視して保育が進められている。さらに、縦割りの活動の中では「たけのこ」をテーマにして「食べる」「竹のおもちゃ作り(竹笛、竹ぼっくり等)」「流しそうめん」等々、子どもたちが自分事として試行錯誤できるよう、ストーリー性のある生き生きとした活動を展開している。また、五感を使って学べるように、電車やバスに乗って出かけるなど様々な体験活動にも注力している。また、保育士同士が子どもたちの情報を共有化し、共通理解を深めつつ保育ができるよう尽力している。</p>